

署名は累計18万に

東京都教育委員会は2016年2月の定例会で4校の夜間定時制の「廃止」を決定しました。しかし廃止の「時期未定」であったため、「生徒募集を停止させない」たたかいが始まりました。

都立定時制存続を②

集会・学習会

卒業生や教職員OB、地域住民などで「小山台高校定時制の廃校に反対する会」、「雪谷高校定時制の存続を求める会」、「江北高校定時制の存続を求める会」、「立川高校定時制の廃校に反対する会」がつくられました。これらの会をつなぐ連絡会も発足し、運動の推進母体になりました。立川高校定時制同窓会（芙蓉会）も加わりました。

集会や学習会を7回開催しました。立川高定時制の募集停止と新たな5校の廃止方針が出された2024年からは連続して3回の緊急集会を行いました。

署名運動

「廃校に反対し、存続を求める署名」が運動の柱です。

毎年10月の教育委員会で、翌年度の都立高校の募集生徒数を決めます。その時に4校の定時制の

募集停止を決めないよう請願署名を提出します。毎年リセットされるので翌年はまた新たな署名運動に取組みます。

2016年10月に雪谷高定時制の募集停止が予告されたため2017年は「雪谷高校定時制の存続を求める会」を中心に運動が進められ、2017年10月に江北高定時制の募集停止が予告されたため2018年は「江北高校定時制の存続を求める会」の運動が中心になりました。連絡会の「4校署名」が無いのはそのためです。

新型コロナウイルス感染が拡大した2020年からは、紙の署名に加えてインターネット署名も始めました。定時制署名は都民の反応がとて良く、署名の列ができるなど1時間の駅頭宣伝で100人分を越えることも少なくありません。こうして積みあげた署名は累計で18万人分を越えました。

生徒募集も

廃校の対象になれば、その学校への入学希望者は減ります。そこで対象校の生徒募集にも取り組みました。学校側の努力を応援するとともに独自の生徒募集チラシを作成して、近隣の中学校や不登校関係団体、外国人支援組織などに配布し、

提出年月	署名数
2016年2月	4校署名8,378筆
2016年10月	4校署名28,728筆
2019年10月	小山台署名10,362筆 立川署名12,553筆
2020年10月	2校署名13,492筆
2021年10月	2校署名29,221筆
2022年10月	2校署名10,051筆
2023年10月	2校署名12,119筆
2024年10月	2校署名22,596筆
2025年9月	2校署名21,776筆 (第2次提出分まで)

生徒募集への協力を呼びかけました。チラシを見て定時制への入学を決めた人も現れました。（多賀哲弥・元都立定時制高校教員）